

# 学校におけるフッ化物洗口の実施について



令和5年2月6日(月)

教育委員会 学校保健課

## 学校における歯と口の健康づくり推進計画(期間:令和4~8年度)

### 目 標

- (1) むし歯や歯肉炎のない児童生徒の増加
- (2) 歯科医師等の専門職及び家庭、学校との連携強化

指標	計画策定時 (R2年度)	現在値 (R3年度)	目標値 (R8年度)
むし歯のない生徒の割合 (中学校1年生)	57.9%	58.7%	67.9%
未処置歯のある 児童生徒の割合	小学校	25.0%	12.5%
	中学校	20.5%	10.2%
中学生における歯肉に炎症所見を 有する者の割合の減少	22.8%(H30)	—	18.6%

## 学校における歯と口の健康づくり推進計画(期間:令和4~8年度)

## フッ化物洗口モデル事業 (令和4年2月~令和5年3月)

### 施策の柱

- (1) 生涯を通じた歯と口の健康づくりの基盤となる望ましい生活習慣の形成
- (2) むし歯治療、むし歯予防のための歯科受診の推進
- (3) フッ化物によるむし歯予防の普及啓発強化、フッ化物洗口法等の推進

「フッ化物塗布」から「フッ化物洗口」への移行

### 具体的取組み

学校におけるフッ化物洗口の実施  
→令和4年2月からモデル事業開始

指標	計画策定時 (R3モデル3校)	現状値 (R4モデル31校)	目標値 (R8年度)
フッ化物洗口の実施校における児童の実施率[小学校]	83.4%	82.4%	92.0%

- ◆モデル校 34校 (R3年度開始:3校 + R4年度開始:31校)
- ◆対象者 小学校全学年の希望者 → 希望しない児童  
…水うがい、自習、昼休み等
- ◆洗口方法 週1回法
- ◆事業実施者(委託) 北九州市歯科医師会  
洗口必要物品の調達、洗口剤の管理、洗口指導、児童保護者等へのフッ化物応用によるむし歯予防の啓発を行う。
- ◆「福岡県学童期フッ化物洗口事業」の活用  
・福岡県歯科医師会 : 初期環境整備(検討会の開催、洗口備品類の準備等)  
・福岡県 : 洗口に係る経費の一部補助
- ◆「スクールヘルパー」の活用  
学校の実状に応じて、フッ化物洗口の準備や片付け等を行い、学校におけるフッ化物洗口の実施をサポートするボランティアとして「スクールヘルパー」を活用し、教職員の負担軽減を図る。

## フッ化物洗口モデル事業 (令和4年2月～令和5年3月)

### 「フッ化物洗口」(全校共通の流れ)

1 洗口液の準備をする。  
児童一人あたり、ディスペンサーボトルを2ブッシュ(10ml)して、紙コップに入れる

2 10ml、コップの底のみ(10cc、小さじ2杯程) 紙コップとティッシュ1枚を取る。

3 1分間ぶくぶくがいをする。  
右、左、上の歯など全部の歯にいきたらせる。

4 10mlなので、わずかにしかでない。 ティッシュを入れて、紙コップに液をはきだす。  
※新型コロナウイルス緊急事態宣言下における  
集団フッ化物洗口の実施について  
(日本口腔衛生学会)

5 小さじ2杯程度なので、ティッシュ1枚で全て吸い込む量 ビニル袋に入れる。

## フッ化物洗口モデル事業 (令和4年2月～令和5年3月)

### 各校にて設定

実施時間	朝自習	中休み	給食後	昼休み・掃除後
実施場所	教室		廊下	体育館・ランチルーム等
主担当 ①準備 ②声かけ(計測) ③片付け	スクールヘルパー等 ボランティア		児童	教職員 スクールサポートスタッフ

モデル校各校へのアンケート・ヒアリング等を実施 ➡ 検証  
➡令和5年度以降の実施方法を検討

➡ 令和5年度 小学校全校 フッ化物洗口実施

モデル校以外  
92校  
令和5年10月  
以降開始

## その他事業

### 歯科衛生士による歯科保健指導

福岡県歯科衛生士会が学校へ訪問し、学級毎に正しい歯のみがき方等を指導するもの。



### フッ化物塗布

特別支援学校小学部  
対象を「小学2・3年生」から「全学年」へ拡大

※令和5年度フッ化物洗口開始校は、移行年度のため、上半期(第1期)のみ実施予定。